プレゼンテーションソリューションを提供する

iP Viewer ソフトウェア

日本アビオニクス株式会社

本書はiP Viewerソフトウェアを使用し、プレゼンテーションを行う上での機能、操作方法について記載しています。プロジェクタとパソコンとの接続、プロジェクタの操作はプロジェクタの取扱説明書をご覧ください。

商標について

・MS、Microsoft、PowerPoint、Windows、Windows2000、Windows XP、Windows Vista は米国Microsoft社の米国およびその他の国における商標および登録商標です。
・AdobeロゴおよびAcrobatはAdobe Systems Incorporated（アドビシステム社）の商標です。
・SDロゴは登録商標です。
・その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の商標および登録商標です。

免責事項について

・火災や地震、第三者による事故、お客様の故意または過失、誤用その他、異常な条件下での使用により生じた損害につきましては、当社ではいかなる責任も負いかねますので予めご了承ください。
・本製品の使用や使用不能から生ずる付随的な損害（事業利益の損失、データの変化や消失）につきましては、当社はいかなる責任も負いかねます。
・他の接続機器または当社以外のソフトウェアを含む製品との組み合わせによる誤動作などから生じた損害につきましては、当社はいかなる責任も負いかねます。
・各取扱説明書で説明している以外の使用方法により生じた損害につきましては、当社はいかなる責任も負いかねます。

(3) 本書は内容について万全を期して作成しましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがありましたらご連絡ください。
(4) 運用した結果の影響については(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

目　次

はじめに ……………………………………………………………………4
iP Viewer使用上のご注意 …………………………………………………4
プレゼンテーションの手順 …………………………………………………5

1. USBドライバとVS-Viewのインストール ……………………6
1-1. パソコンの動作条件 ………………………………………………………6
1-2. USBデバイスドライバの自動インストール ………………………………6
1-3. VS-Viewのインストール ………………………………………………6

2. iP Viewerソフトウェアの起動と終了 ……………………………7
2-1. ソフトウェアの起動 ………………………………………………………7
●ディスクの空き容量不足の警告メッセージを表示した場合 ………………8
2-2. ソフトウェアの終了とUSBデバイスとの切断 ……………………………9
2-3. iP Viewerの環境設定と取扱説明書を見るには……………………………10

3. iP Viewer画面の名称と主な働き ………………………………11

4. プレゼンテーション資料の作成について ………………………14

5. プレゼンテーションの開始 ……………………………………15
5-1. 資料の登録と表示……………………………………………………………15
5-2. プロジェクタのOHP資料をiP Viewerに登録する …………………………16
5-3. 表示資料を次に進める／前に戻す…………………………………………18
5-4. 資料を回転する………………………………………………………………18
5-5. 資料を拡大／縮小する………………………………………………………19
5-6. 登録資料の選択表示…………………………………………………………19
5-7. 資料を追加する………………………………………………………………20
5-8. 登録資料を編集する…………………………………………………………20

6. プレゼンテーションの終了 ……………………………………22
6-1. 資料を一覧で確認する………………………………………………………22
6-2. 編集資料を保存する…………………………………………………………22
6-3. 終了する………………………………………………………………………25

7. 便利な機能 ………………………………………………………26
7-1. 表示資料に線や文字を書き加える…………………………………………26
7-2. 表示画面をホワイトボード（白板）として使う……………………………28
7-3. 画面をキャプチャして登録する……………………………………………29

Windows VistsでiP Viewerを動作させるには ……………………………30

保証と修理サービス …………………………………………………………31

はじめに

iP ViewerはインテリジェントプロジェクタiPシリーズ専用のプレゼンテーション支援ソフトウェアです。

登録した資料に手書きで線や文字を書き加える、白画像を使ってホワイトボードとして使う、パソコン画面をキャプチャして登録する、プロジェクタ搭載の書画カメラの取り込み画像を登録することなどができ、さらに使用した資料を一括保存することができます。

iP ViewerのソフトウェアはUSBケーブルを使ってプロジェクタとパソコンとを接続すると、プロジェクタ内に格納されているプログラムをパソコンが自動で検出して起動し、ソフトウェアを使うための必要な設定を自動で行ってくれるプラグアンドプレイ方式を採用しています。このため、ソフトウエアのインストールなど面倒な設定をしなくても、接続したパソコンはいつでもすぐ使用することができます。（初めてプロジェクタとパソコンを接続する場合はUSBドライバのインストールが必要です。）

iP Viewer使用上のご注意

- プロジェクタのリムーバルディスク*内のファイルを移動したり削除しないでください。プログラムが起動しなくなります。

  * パソコンからはプロジェクタの内蔵メモリーをUSB大容量リムーバブルデバイスとして認識します。

- パソコンに関する注意事項はご使用のパソコンの取扱説明書およびヘルプをご覧ください。
- USBケーブルの取り外しは、プロジェクタの内蔵メモリーを破損することがありますので、必ず本取扱説明書の記載事項（9ページ）を守って行ってください。

お知らせ　リムーバブルデバイスとは取り外しができる記憶装置のことで、ドライバはこの装置を動かす（読み書きする）ソフトウェアです。

■ プレゼンテーションの手順

プロジェクタにパソコンを接続して iP Viewerを使用する場合の手順を説明しています。システムとして使用している場合は管理者にお尋ねください。

1 パソコンでプレゼンテーション資料を作成する→14ページ

2 プロジェクタとパソコンとをRGBケーブルで接続する（画像表示用）
→プロジェクタ本体の取扱説明書

3 プロジェクタの電源を入れ、入力切り替えを［PC］にする
→プロジェクタの取扱説明書

4 パソコンを起動する

5 プロジェクタとパソコンをUSBケーブルで接続する（USBリムーバブルデバイス用）
接続方法はプロジェクタの取扱説明書をご覧ください。

6 初めてプロジェクタと接続する場合のみ→6ページ
USBデバイスドライバのインストール（自動）を行います。
保存画像をPDFファイルとしても保存したい方のみ、“VS-View”のインストールが必要です。

7 プレゼンテーションを開始する→15ページ

8 プレゼンテーションを終了する→22ページ
（iP Viewerソフトウェアを終了する）

9 パソコンとUSBとの切断操作をする→9ページ

10 プロジェクタとパソコンの電源を切る

11 USBケーブル、RGBケーブルを外す

1. USBドライバとVS-Viewのインストール

《1-1.パソコンの動作条件》

iP Viewerソフトウェアを正常に動作させるには下記の項目を満たす必要があります。

対応OS	Windows XP、Windows Vista (64Bit版は除く) ご注意 Windows 2000以前のOSはiP Viewerの動作保証範囲外になります。
CPU	Celeron 800MHz 以上（Windows Vistaでは、OSが推奨するCPU）
メモリー	Windows XP：512 MB 以上、Windows Vista：1 GB 以上
HD空き容量	500MB以上推奨（テンポラリフォルダのドライブ容量）
表示解像度	XGA（1024×768）以上 ご注意 これ以下の解像度の場合 iP Viewer のポインタなどが正しく表示されません。解像度の変更はパソコンのヘルプをご覧ください。
USBポート	USB 2.0

《1-2.USBデバイスドライバの自動インストール》

プロジェクタを“USB大容量リムーバブルデバイス”としてパソコンに認識させるドライバ（USBデバイスドライバ）を自動でインストールします。

1 **プレゼンテーションの手順（5ページ参照）をご覧になり2～5の操作を行ってください。**

自動的にインストールを開始します。

2 **インストールが終了するとパソコンの再起動を要求する画面を表示しますので、［再起動］ボタンをクリックします。**

これで、USBデバイスドライバのインストールが終了しました。

お知らせ ● USBデバイスドライバのインストールは、プロジェクタと初めて接続したときに行われます。次回からは行われません。

《1-3.VS-Viewのインストール》

VS-Viewは編集画像一覧で表示する画像（24ページ参照）をPDFファイルとしても保存したい場合に必要です。

必要な方のみインストールを行ってください。

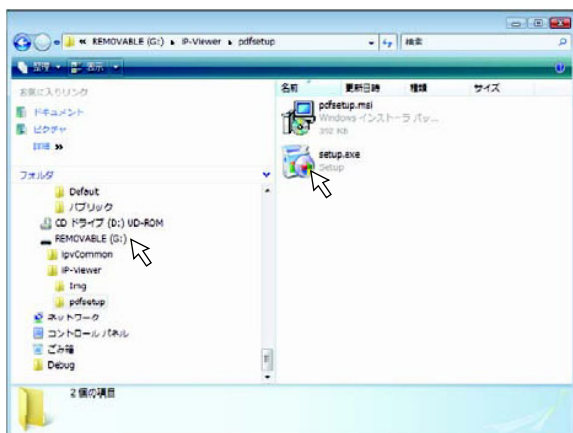
※VS-ViewはComponentOneの登録商標です。

お知らせ ●この操作は管理者権限のあるユーザーにて実施してください。

ご注意

- VS-Viewがインストールされていない場合、PDF保存はできません。
- メモリーおよび仮想メモリー容量が十分でない場合、PDF保存に失敗することがあります。
- プロジェクタのリムーバルディスク内のファイルを移動したり削除しないでください。プログラムが起動しなくなります。

確認　パソコンとプロジェクタが接続され、電源が入っていることを確認ください。
前ページのUSBデバイスドライバのインストールが完了していることを確認してください。

1　エクスプローラ上の“コンピュータ”内にあるiP Viewerドライブ“REMOVABLE”をクリックして、リムーバブルディスクを開きます。

2　［iP Viewer］フォルダ→［pdfsetup］フォルダ内にある“setup.exe”ファイルをダブルクリックします。
インストーラーの指示に従い、「次へ」ボタンをクリックしてインストールを完了してください。
Windows Vistaでユーザーアカウント制御が有効な場合は、確認画面が現れますので許可をしてください。

2. iP Viewerソフトウェアの起動と終了

《2-1.ソフトウェアの起動》

1　パソコンとプロジェクタをRGBケーブルで接続する。

2　パソコンとプロジェクタの電源を入れる。

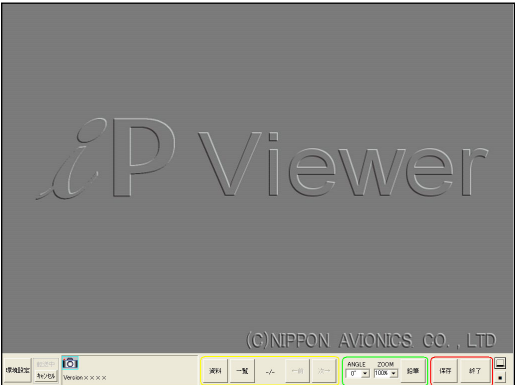
3　プロジェクタとパソコンをUSBケーブルで接続する。
自動的にiP Viewerの起動確認画面を表示します。
一度終了した後、再び起動する場合はデスクトップ上の“iP Viewer”アイコンをダブルクリックしてください。

自動起動しない場合

- パソコンのCD-ROMの自動起動設定が「無効」又は「毎回確認する」に設定されていると自動で起動しません。「有効」に設定してください（設定はパソコンのヘルプをご覧ください）。
  Windows Vistaの場合は、コントロールパネル内に自動再生の項目がありますので、その中の「ソフトウェアとゲーム」の起動設定を行ってください。（設定方法は、パソコンのヘルプをご覧ください。）
- エクスプローラをなどを使ってiP ViewerのCD-ROMドライブのボリューム名“UD-ROM”ドライブ内の“BootAP.exe”をダブルクリックして起動させてください。
- 一度起動した後に、ハードディスクやCD-ROM・リムーバブルディスク・コンパクトフラッシュなどのドライブやメディアを追加または削除した場合には、iP Viewer起動ドライブの順番が変わってしまい、デスクトップ上の“iP Viewer”アイコンから起動しない場合があります。
  この場合は、プロジェクタとパソコンをつなぐUSBケーブルの抜き差しを行ってください。
- iP Viewerが動作するには、連続してドライブが4つ空く必要があります。
  ネットワークドライブを割り当てられている場合は、4つ以上ドライブ文字が空くように設定をしてください。（C、Dドライブを利用している場合は、E、F、G、Hドライブにはネットワークドライブを割り当てないでください）

4 ［OK］ボタンをクリックする。

iP Viewerが起動します。

iP Viewer画面の名称と主な働きは、→11ページ参照
プレゼンテーションを行うには、→15ページ参照

●ディスクの空き容量不足の警告メッセージを表示した場合

ソフトウェア起動時に、ハードディスクの空き容量をチェックします。
ハードディスク（テンポラリフォルダ*のあるディスク）に十分な空き容量（500MB以上）がない場合は確認メッセージを表示します。

* テンポラリフォルダ：ソフトウェアが作業中に使用する一時ファイルの保管場所で初期設定はCドライブに設定されています。

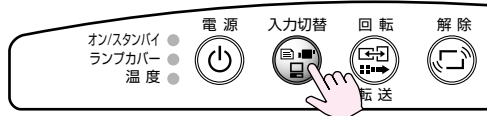
意味と対処法	メッセージ画面
［環境設定を変更する］をクリックする “環境設定”画面を表示します。テンポラリフォルダを指定しなおしてください。→10ページ「2-3. iP Viewerの環境設定と取扱説明書を見るには」参照 **［このまま続ける］をクリックする** ソフトウェアを使用することはできますが、多くの資料を登録した場合、容量不足で操作できなくなる場合があります。 空き容量が約100MB未満になるとこのボタンは無効になります。 **［終了する］をクリックする** ソフトウェアを終了します。	空き容量不足 空き容量が不足しています。 環境設定にてテンポラリディレクトリを変更してください 環境設定を変更する　このまま続ける　終了する
ディスク容量が少なくなるか、ディスクに障害が発生すると警告表示がでます。 ［OK］ボタンをクリックするとソフトウェアが終了します。 取込画像または編集画像は保存できません。	IP-Viewer ディスクに書き込むための容量がないかディスクが壊れています。 プログラムを終了します。 OK

《2-2.ソフトウェアの終了とUSBデバイスとの切断》

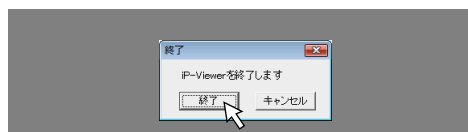
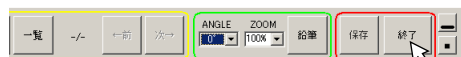
プロジェクタおよびパソコンの電源を切る場合は次の操作をお守りください。

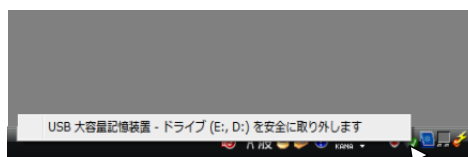
ご注意

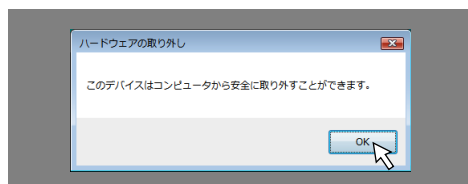
プロジェクタの内蔵メモリー（iP Viewer 内蔵用）をUSB大容量記憶装置デバイスとして使用しますので、他の記憶装置デバイスと同様に注意して取り扱ってください。
次のようなことは行わないでください。プロジェクタ内蔵メモリーが破壊されたり、ソフトウエアが起動しなくなる場合があります。
・ハードウェアの取り外し操作を行わないでUSBケーブルを外す
・ハードウェアの取り外し操作を行わないでプロジェクタの電源を切る
・プロジェクタの内蔵メモリーに書き込みを行う

1 **プロジェクタの［入力切替］ボタン又はリモコンのOHPボタンを押して“OHP”を選択する。**

2 **iP Viewer画面右下の［終了］ボタンをクリックします。**

- 前回保存されてから画像の登録や書き込み移動など変化がなかった場合は「終了」画面を表示します。
  ［終了］ボタンをクリックすると iP Viewerが終了します。
- 前回保存されてから画像の登録や書き込み移動など変化があった場合は「保存／終了」画面を表示します。
  保存しない場合は［終了］ボタンをクリックすると iP Viewerを終了します。

保存する場合は［保存］ボタンをクリックします。
保存方法は22ページ「プレゼンテーションの終了」をご覧ください。

3 **USBケーブルを取り外す場合は、デスクトップ画面のタスクバー（右下）にある（切断アイコン）をクリックします。**

ドライブの選択表示がでますので［USB大容量記憶装置デバイス-ドライブ］を選択します。
・パソコンに複数のドライブが表示される場合は、“マイコンピュータ”を開いて iP Viewerの リムーバブルディスクのドライブ番号（“F”などのアルファベット）を調べてください。

4 **“このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます。”の表示が出たらUSBケーブルを取り外すことができます。**

表示は［X］をクリックすると閉じます。
ご使用のOSによっては表示が異なります。

5 **この状態でプロジェクタの電源を切り、USBケーブルを取り外すことができます。**

《2-3. iP Viewerの環境設定と取扱説明書を見るには》

- 環境設定は iP Viewerが作業用に使用するフォルダの一時保管場所の設定です。
  初期設定はパソコンで設定されたテンポラリフォルダになります。（お使いのパソコンの環境によって異なる場合があります）。
  通常は初期設定のままで構いませんが、“C” ドライブの空き容量が500MB以下の場合や iP Viewer 起動時のディスク空き容量不足メッセージを表示した場合などに変更が必要となります。
- 取扱説明書は環境設定画面から取扱説明書のPDFファイルを開きます。

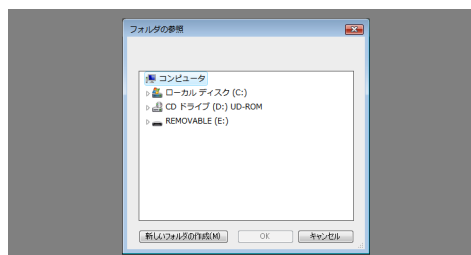
● iP Viewerの環境設定

1 **iP Viewerを起動し、画面左下の［環境設定］ボタンをクリックする。**

環境設定画面を表示します。

・iP Viewerの起動は7ページ「2-1.ソフトウェアの起動」をご覧ください。

2 **［参照］をクリックして空き容量の大きなドライブに一時保管フォルダを設定する。**

［フォルダの参照］画面が開きます。
空き容量の大きなドライブのフォルダをクリックします。

> **ご注意**
> ネットワークドライブを指定すると資料の取込時や編集画像保存時にエラーが発生することがありますので指定しないでください。

3 **設定を変更し［OK］をクリックする。**

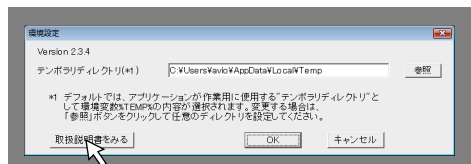
環境設定画面が閉じます。

次回起動時に設定内容は有効になります。

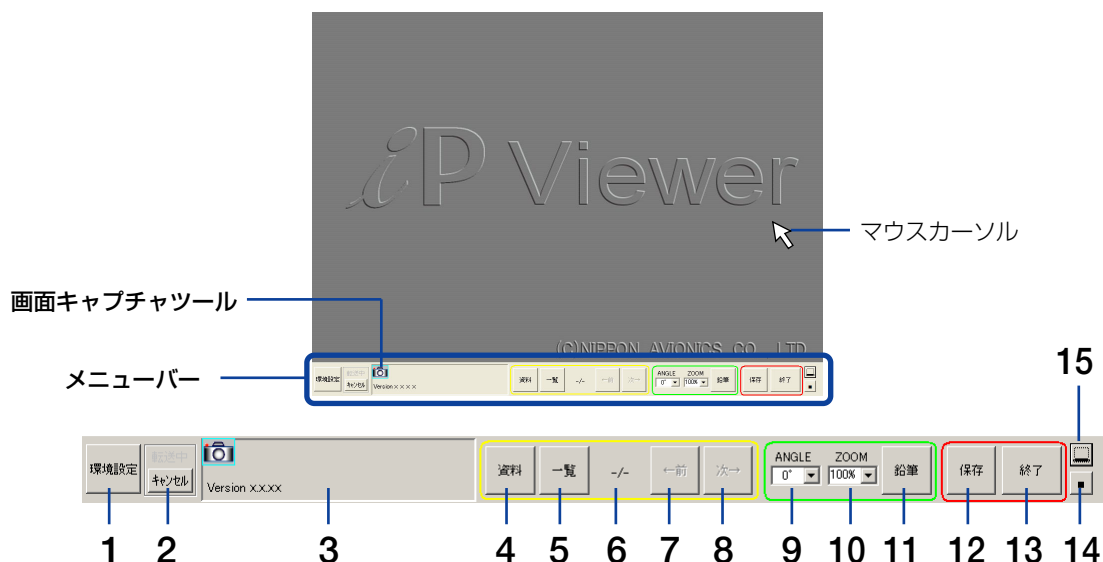
●取扱説明書を見る

1 **上記1の操作をして環境設定画面を開く。**

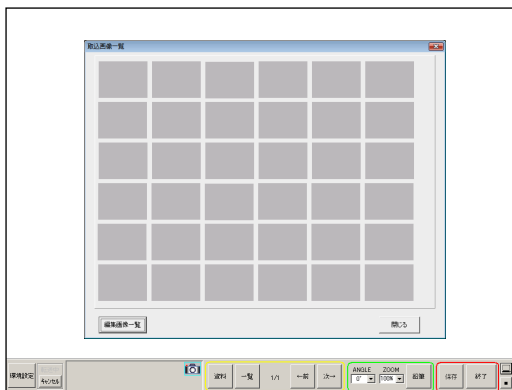
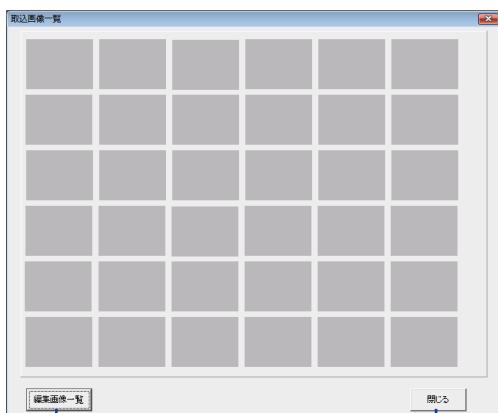
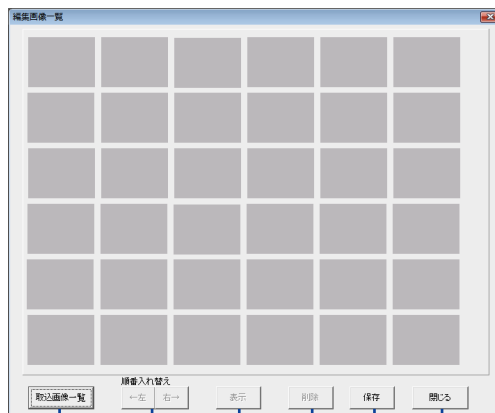
2 **［取扱説明書をみる］ボタンをクリックする。**

“ iP Viewer 取扱説明書” のPDFファイルが開きます。

> **ご注意**
> iP Viewer 取扱説明書を見るためには、ご使用しているパソコンに Acrobat Reader （4.15以上）がインストールされている必要があります。

3. iP Viewer画面の名称と主な働き

iP Viewer画面表示と各ボタンの概要を記載しています。詳細や操作方法は各説明項目をご覧ください。

1	**環境設定**	環境設定画面が表示されます。iP Viewerが作業用に使用するフォルダの一時保管場所の指定および取扱説明書の表示を選ぶことができます。
2	**転送中(キャンセル)**	プロジェクタのOHP機能で保存した資料を iP Viewerに転送している間“転送中”（緑色）を表示します。[キャンセル] ボタンをクリックすると転送を中止します。
3	**情報**	動作状況を表示します。
4	**資料**	資料を iP Viewerに登録します。クリックすると取り込む資料の選択表示がでます。 フォルダ…使用するファイルが含まれているフォルダを選択します。 ファイル…使用するファイルを選択します。 ホワイトボード…白画面を表示しホワイトボードとして使用できます。鉛筆ツールを使って描画します。
5	**一覧**	上記（4）の資料や画面キャプチャ、OHP取込して登録した資料をサムネイル（縮小画像）で一覧表示します。 一覧には「取込画像一覧」と「編集画像一覧」があります。→12ページ
6	**ページ番号**	登録資料のページ番号／合計ページ数を表示します。
7	**←前**	一つ前の資料を表示します。
8	**次→**	一つ先の資料を表示します。
9	ANGLE	[▼] をクリックして一覧から資料の回転角度を選択します。 90度単位で右に回転し角度（0、90、180、270度）を表示します。
10	ZOOM	[▼] をクリックして一覧から資料の拡大率を選択します。 拡大率は45、64、80、100、125、150、200%です。
11	**鉛筆**	鉛筆ツールを表示します。資料に手書きで描画したり、キーボードから文字入力ができます。 閉じるには再び［鉛筆］をクリックします。鉛筆ツールは13ページを参照ください。
12	**保存**	iP Viewerで表示した資料またはプロジェクタから取得した画像を保存します。
13	**終了**	iP Viewerソフトウェアを終了します。終了時には確認ダイアログを表示します。
14	**最小化**	メニューバーが最小化され［Sts］アイコンに変わります。クリックすると元に戻ります。
15	**非表示**	iP Viewerが非表示状態になり、パソコンのタスクバーにボタン表示されます。ボタンをクリックすると最大表示状態に戻り、一番手前に表示されます。

●一覧画面（サムネイル）

メニューバーの［一覧］ボタンをクリックすると［取込画像一覧］を表示します。
一覧画面の左下のボタンをクリックすることで［編集画像一覧］と［取込画像一覧］を切り替えることができます。

取込画像一覧

編集画像一覧

1	**編集画面一覧**	「編集画像一覧」画面に切り替えます。 「取込画像一覧」の画像を一度でも表示した資料の一覧です。表示した画像に鉛筆ツールを使って書き込みしたり、ホワイトボードとして書き込みをした画像やプロジェクタからの取込画像も登録されます。 この画面で順番の入れ替えや削除ができます。
2	**取込画像一覧**	取込画像一覧画面に切り替えます。 iP Viewerに取り込んだ資料の一覧表示です。
3	**順序入れ替え**	カーソルのある画像の位置を入れ替えます。［←前］ボタンは1つ前の画像と入れ替えます。［次→］ボタンは次の画像と入れ替えます。
4	**表示**	カーソルのある画像を表示します。
5	**削除**	カーソルのある画像を削除します。
6	**保存**	「編集画像一覧」の画像を保存します。
7	**閉じる**	一覧表示を閉じます。

●鉛筆ツール

1	**タイトルバー**	タイトルバーをドラッグすることで任意の位置に移動できます。
2	**ペンカーソル**	鉛筆ツールに切り替えるとマウスカーソルがペンカーソルに変わります。 マウスをクリックした状態で描きます。 文字入力はクリックした位置から文字が入力されます。
3	**ペン種**	鉛筆／マーカーを選びます。
4	**色**	色を選択します。□をクリックすると［色の設定］画面を表示します。
5	**太さ**	鉛筆またはマーカーの線の太さを選択します。
6	**文字**	文字をパソコンのキーボードから入力します。
7	**フォント**	フォント選択画面を表示します。
8	**確定**	文字入力を終了します。
9	**消しゴム**	消しゴム機能に変わります。
10	**消しゴムの大きさ**	消しゴムの大きさを（消去範囲を赤枠で表示）選択します。
11	**全消去**	描いた線や文字、入力した文字が全て消去されます。（登録資料は消去されません。）
12	**ScreenKB**	キーボードを接続していない環境でご使用の場合はパソコンのOSに付属のソフトキーボードが起動します。これを使用して入力します。
13	**最小化**	鉛筆ツールを最小化します。最小化画面の［元に戻す］ボタンをクリックすると元の大きさに戻ります。

●画面キャプチャツール

[取込]
カメラアイコンにマウスカーソルを合わせると、［取込］ボタンを表示します。［取込］ボタンを押すと現在表示している画面を取り込みます。

ウインドウ切り替え
カメラアイコンをクリックするごとに、デスクトップ画面の一番手前に表示する“ウインドウ”を切り替えます。

画面キャプチャツールの移動
カメラアイコンをドラッグしてお好みの場所に画面キャプチャツールを移動します。
iP Viewerを最小化しても画面キャプチャツールは表示します。

4. プレゼンテーション資料の作成について

- PowerPointで作成した資料はiP Viewer登録時に自動で画像ファイルに変換されます。
- 紙資料は、OHP機能を使って登録および画像データにすることができます。→16ページ参照
- プレゼンテーション中にパソコンで作成した資料を直接 iP Viewerに登録することができます。
  →29ページ参照
- お持ちのアプリケーションソフトウェアで作成した資料は、画像ファイルに変換するか、画面キャプチャツールで取り込みます。
- iP Viewer 又は専用ツールを用いて作成した資料はSDメモリーカードに保存することにより、iP-40で再生することができます。

  注）iP-40で使用するSDメモリーカードは、弊社オプション品（型名：AV-SDSDC1GB)のみ動作保証します。
  その他SDメモリーカードについては動作保証しておりません。
  SDHC規格のSDメモリーカード及び高速SDメモリーカード（Class6）には対応しておりません。

iP Viewerに登録できるファイル形式

JPEG（拡張子はjpg)、PNG（拡張子はpng)、WMF（拡張子はwmf)、PPT（拡張子はppt)、PPTX（拡張子はpptx)

※PNG形式とWMF形式は、文字資料など情報量の少ない場合はファイルサイズが小さくなりますが、写真などの情報量が多い画像データの場合はファイルサイズが大きくなります。

PowerPointのファイル

・ファイル保存時に“プレゼンテーション（PPT又はPPTX)”で保存してください。
iP Viewerに登録すると自動で画像に変換されてページ順に登録します。
PPT（PowerPointファイル）は、PowerPoint（97, 98, 2000, XP, 2003、2007 のいずれかのバージョン）およびMicrosoft officeツールがパソコンにインストールされていないと登録できません。
・ファイルの種類でJPEG、PNGで保存した場合はそのまま登録されます（画像データのため画像変換はしません)。
・“スライドショー（PPS）ファイルは自動再生や自動ページ切り替えなど機能しません。
・PowerPointアニメーションや効果音などは動作しません。

PowerPoint以外のファイル

・PowerPoint以外のファイルはJPEG、PNG、WMFフォーマット形式の画像に変換して、1つのフォルダに入れてください。フォルダ選択でフォルダ中のファイルを昇順で一括登録ができます。
・プレゼンテーションの順に登録したい場合は昇順のファイル名にしてください。
iP Viewerは0→9→A→Z→五十音　順に登録されます。

iP Viewer以外の資料作成Tool

iP Viewer以外に専用ツールを準備しています。本ツールは、PCにインストールするだけで利用できます。
弊社ホームページ<http://www.avio.co.jp>よりダウンロードする事が可能です。
専用ツールでは、指定したファイルを全て登録保存しますので、PowerPointファイルやJPEGデータ等でページ数が多い資料で、PCレスプレゼン用のデータを作成する場合には最適なツールです。

紙資料の画像ファイル

プロジェクタの内蔵メモリーに保存し、パソコンに転送します。
プロジェクタを使用してSDメモリーカードに保存した画像ファイルは、SDメモリーカードが扱えるカードリーダーなどを使ってパソコンへ取り込みます。

あらかじめ資料として作成するには…

1. 「5-2. プロジェクタのOHP資料を iP Viewerに登録する」（→16ページ参照）の操作をして必要な紙資料を iP Viewerに登録します。
2. 「6.プレゼンテーションの終了」（→22ページ参照）で保存すると1つのフォルダに画像データとして保存されます。
   保存された画像ファイルは再び iP Viewerで使用することができます。

5. プレゼンテーションの開始

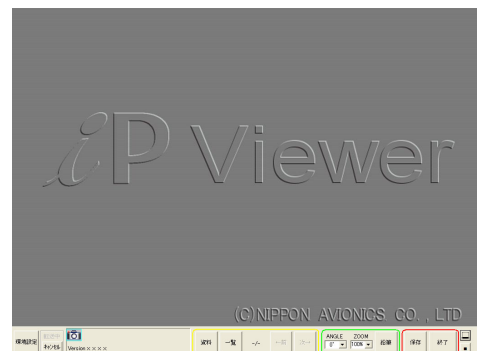
作成した資料を iP Viewer に読み込んで登録すると資料がパソコン画面に表示されます。登録済み資料を一覧表示で見たり資料の追加登録もできます。
登録した資料やホワイトボードに手書きで線や文字を書き加えることもできます。→26、28ページ参照

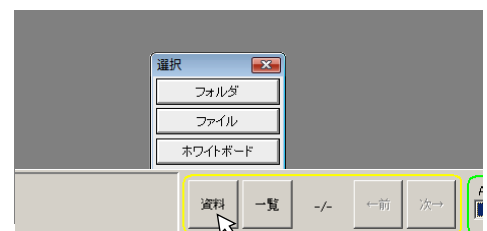
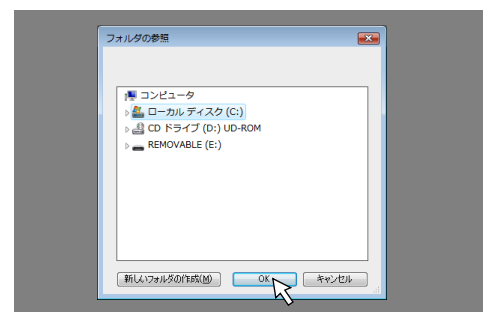
登録できるファイル形式
JPEG（拡張子はjpg）、PNG（拡張子はpng）、WMF（拡張子はwmf）、PPT（拡張子はppt）、PPTX（拡張子はpptx）

ご注意 PPT（PowerPointファイル）は、PowerPoint（97, 98, 2000, XP, 2003, 2007 のいずれかのバージョン）およびMicrosoft officeツールがパソコンにインストールされていないと登録できません。

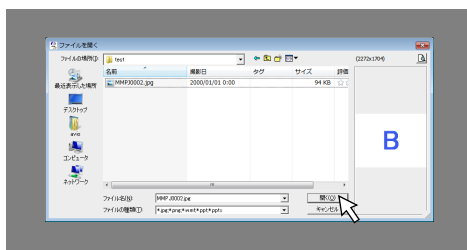
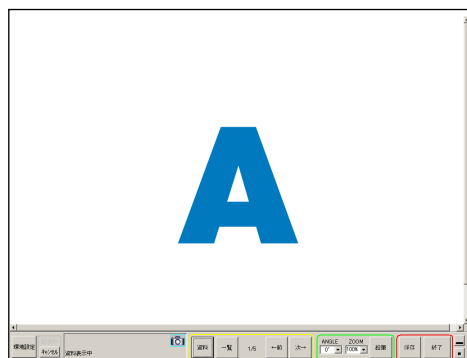
登録画像ファイル数
100ファイルまで登録できますが、数多くのファイルを保存する場合は時間がかかります。
100ファイル以上登録しますと動作不安定になったりメモリー不足エラーになることがあります。

ご注意 **使用中に警告表示が出たときはディスクメモリーの容量不足が考えられます。**→8ページ参照

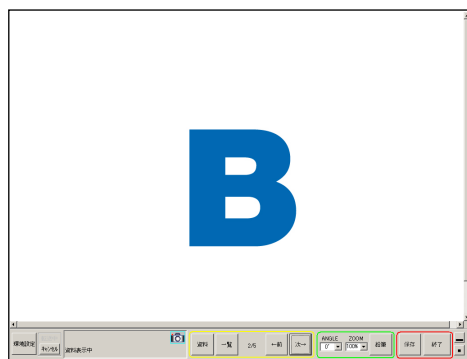
準備
1. プロジェクタとパソコンをRGBケーブルで接続します。
2. プロジェクタの電源を入れ、パソコンを起動します。
3. プロジェクタとパソコンをUSBケーブルで接続します。
   iP Viewerが自動で立ち上がります。起動しない場合は7ページをご覧ください。

《5-1. 資料の登録と表示》

1 メニューバーの［資料］ボタンをクリックします。
選択画面を表示します。

2-1 フォルダ指定の場合：資料が入っている［フォルダ］をクリックします。
フォルダの参照画面を表示します。
目的のフォルダを選択し［OK］ボタンをクリックします。

・フォルダ内の画像ファイルまたはPowerPointファイルが取り込まれ、始めの画像を投写します。
・PowerPointファイルはJPEGに変換されて取り込みます。変換中は変換状況が表示されます。

2-2　ファイル指定の場合：

［ファイル］をクリックします。
ファイルを開く画面を表示します。
目的の画像またはPowerPointファイルを選択し［開く(O)］ボタンをクリックします。
・PowerPointファイルはJPEGに変換されて取り込みます。変換中は変換状況が表示されます。

3　必要に応じて1・2の操作を繰り返して登録します。

お知らせ

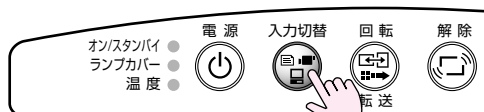
・プロジェクタでSDメモリーカードに保存した画像ファイルをiP Viewer上で登録するには、SDメモリーカードをパソコンにセットしてください。
・フォルダ名は“xxxAVMPJ”（xxxは自動で割り当てられた3桁の番号)、画像ファイル名は“MMPJxxxx.jpg”（xxxxは自動で割り当てられた4桁の番号）です。
・プロジェクタでSDメモリーカードに保存した画像は、¥DCIM¥100AVMPJ～499AVMPJフォルダに保存されます。最新画像は番号が一番大きいフォルダに格納されています。

《5-2. プロジェクタのOHP資料を iP Viewerに登録する》

プロジェクタの内蔵メモリーに保存した画像をパソコンの iP Viewerに転送して登録します。
スキャナ機能としてご使用になれます。

ご注意

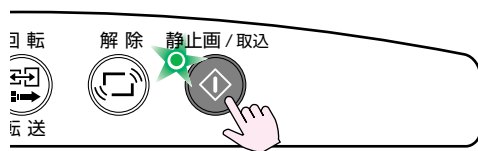
データ転送中はUSBケーブルを抜いたり、プロジェクタの電源を切らないでください。プロジェクタ内蔵メモリーが破損し、故障の原因となることがあります。
万一動作が異常になった場合は、USBケーブルを抜いてからプロジェクタの電源を入れ直す、パソコンを立上げ直す操作を行ってみてください。

1　プロジェクタの［入力切替］ボタン又はリモコンのOHPボタンを押して“OHP”を選択する。

OHPに切り替えるとiP Viewerからのプレゼンテーションの画像は消え、OHPの投写画像に変わります。

2 資料をのせる。

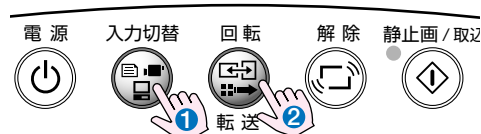
プロジェクタからの表示映像を見ながら、資料を動かして取り込み位置を調整してください。

3 プロジェクタの［静止画／取込］ボタンを押す。

プロジェクタの内蔵メモリーに保存を開始し、USBアイコンがプロジェクタから表示されます。表示が消えれば次の資料の取り込みができます。
取り込む資料が複数枚あるときは2、3を繰り返します。

お知らせ

・必要な枚数取り込みましたら iP Viewerに転送してください。
・取り込んだ画像データ量がプロジェクタのメモリー容量の上限を超えると、その後の取り込み操作は無効となりますのでご注意ください。
（iP投写映像の右上のアイコンが、保存無効時から赤に変わります）
転送すると再度プロジェクタで資料を取り込めるようになります。

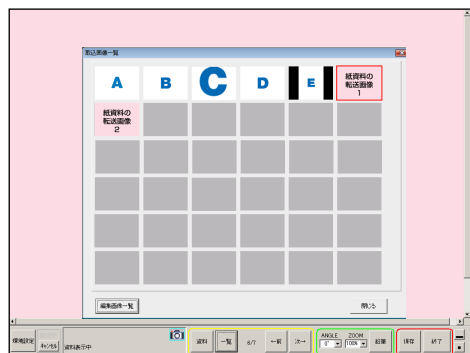
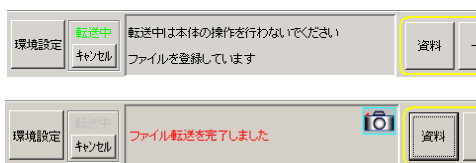
4 プロジェクタの［入力切替］ボタンを押して入力をPCに切り替え、［転送］ボタンを押す。

iP Viewerに転送が始まり、資料の登録を開始します。
入力が「OHP」のときは、転送ボタンを長押しすることでも可能です。

ご注意

・転送中はプロジェクタを操作しないでください。内蔵メモリーが破損し故障の原因となることがあります。

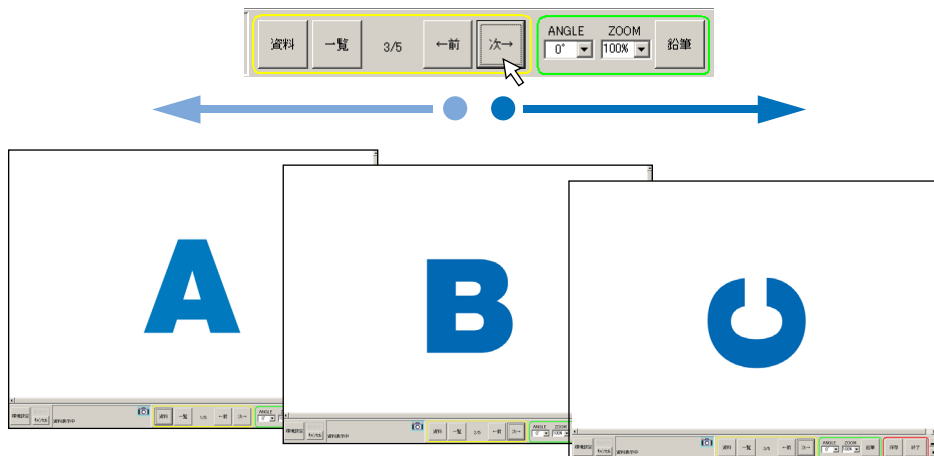
・プロジェクタにSDメモリーカードがセットされていると転送できません。SDメモリーカードを取り出してください。
・転送中は iP Viewerのメニューバーの“転送中”が緑色表示します。
・転送が完了すると“転送中”の表示が消えます（薄いグレイ）。
・［キャンセル］ボタンをクリックすると転送を中止します。
・転送後は、プロジェクタの内蔵メモリー内の画像は自動で消去されます。

お知らせ

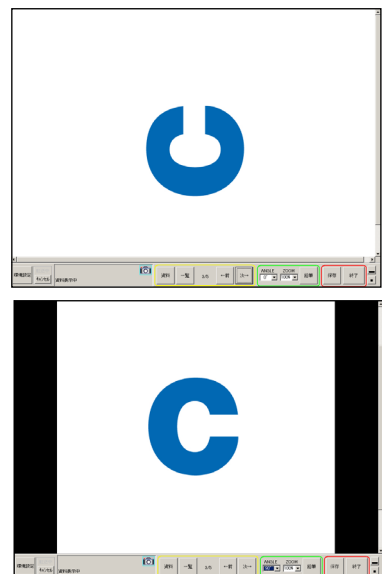
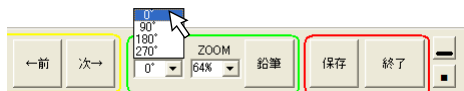
転送されたOHP資料は現在までに登録された資料の最後に追加されます。複数枚のOHP資料は順次登録します。
プロジェクタから取り込んだ資料は、資料の「取込画像一覧」に追加されると同時に「編集画像一覧」としても挿入されます。

《5-3. 表示資料を次に進める／前に戻す》

ページの切り替え操作です。

メニューバーの［次→］ボタンをクリックすると次の資料に切り替わります。最後の資料の次は始めの資料を表示します。
［←前］ボタンをクリックすると前の資料表示に戻ります。
始めの資料の前は最後の資料を表示します。

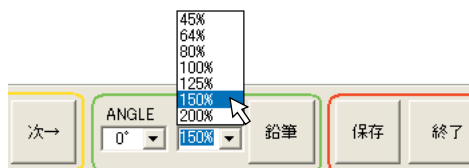
お知らせ 下記のキーボード操作でも行えます。
次：「→」キー、「↓」キー、スペースキー
前：「←」キー、「↑」キー、「Back Space」キー

《5-4. 資料を回転する》

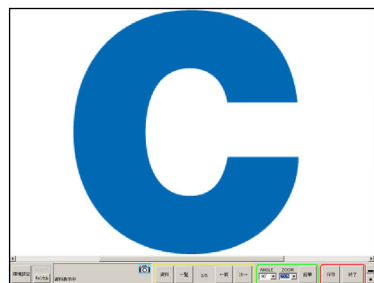
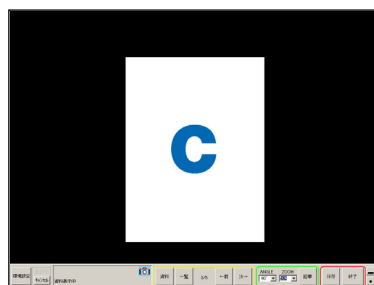
横の資料を縦向きに投写する場合に使います。

ANGLEの［▼］をクリックして選択一覧を出し、目的の角度をクリックします。資料は右回転します。

・0度、90度、180度、270度から回転角度を選択します。
・iP Viewer表示範囲からはみ出た資料はスクロールバーが表示されますので、スクロールバーを移動して表示させます。
・iP Viewer起動中は設定内容を記憶しています。

《5-5. 資料を拡大／縮小する》

プロジェクタの表示画像解像度より大きな画像や小さな画像の表示イメージを調整できます。

ZOOMの［▼］をクリックして選択一覧を出し、目的の拡大率をクリックします。

・45%、64%、80%、100%、125%、150%、200%から拡大率を選択します。
・ZOOM倍率表示のテキストを直接クリックして青色に変えると、数値入力で倍率の設定（45～200）ができます。
・拡大時の隠れた部分はスクロールバーまたは資料をドラッグして移動できます。
・iP Viewer起動中は設定内容を記憶しています。

小さな画像を極端に拡大するとデジタルズームをするためギザギザが目立った画像になります。

《5-6. 登録資料の選択表示》

取込画像一覧の中から目的の画像を選んで表示します。

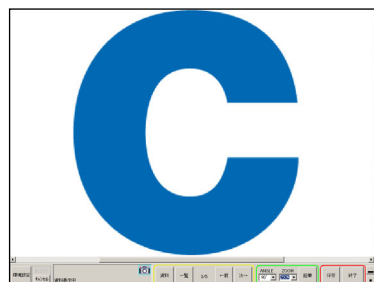
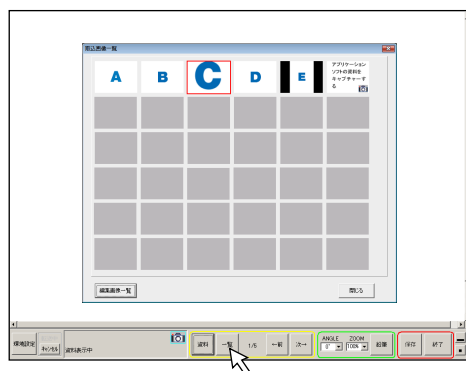
1 メニューバーの［一覧］ボタンをクリックする。

［取込画像一覧］画面を表示します。
一覧表示を閉じるときは［閉じる］ボタンをクリックします。

お知らせ

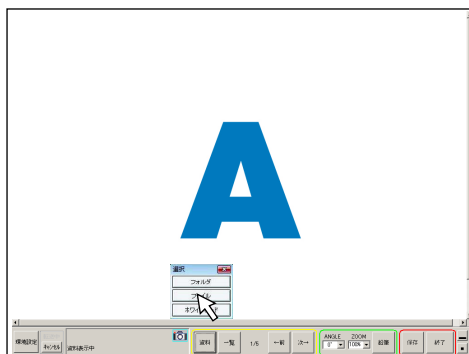
・36枚を超えるとスクロールバーを表示します。
・画面キャプチャツールで取り込んだ資料は他の資料と区別するためカメラアイコンが付きます。

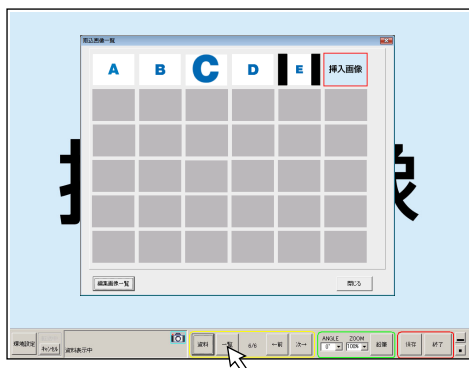
2 表示したい画像をクリックする。

一覧画面が閉じ画像が表示されます。

《5-7. 資料を追加する》

表示中に新しい資料を追加することができます。
追加した資料は今まで登録した資料の最後に追加登録されます。

1　メニューバーの［資料］ボタンをクリックすると選択画面を表示します。選択画面から目的のフォルダやファイルを指定して追加します。

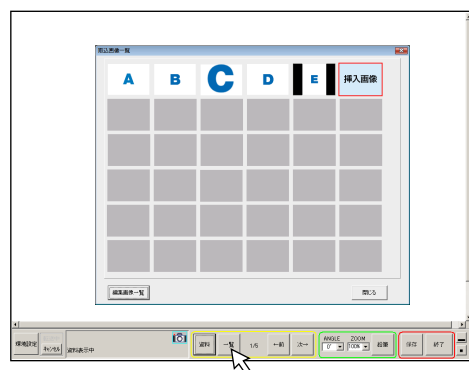
指定の方法は、→15ページ参照

現在まで登録した資料の最後に追加されます。
［取込画像一覧］表示でご確認ください。

お知らせ　フォルダを選択した場合フォルダ内の画像ファイルまたはPowerPointファイル（JPEGに自動変換された画像）が順次追加されます。

《5-8. 登録資料を編集する》

登録資料（編集画像一覧の画像）を説明順に編集し直し、ページ切り替え操作のみでプレゼンテーションが行えるようにします。
編集した登録資料はSDメモリーカードに保存すれば、パソコンがなくてもプロジェクタでプレゼンテーションが行えます。

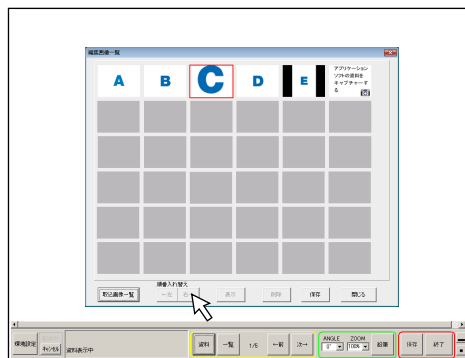
一覧画面については12ページ「一覧画面（サムネイル）」をご覧ください。

1　［一覧］ボタンをクリックして一覧画面を表示する。

・編集画像一覧を表示する場合は、取込画像一覧の下にある［編集画像一覧］ボタンをクリックしてください。
　編集画像一覧画面に変わります。

表示順（保存する順番）を入れ替える場合

順番入替［←左］［右→］ボタンをクリックしてカーソル位置の画像を左右の画像と入れ替えます。

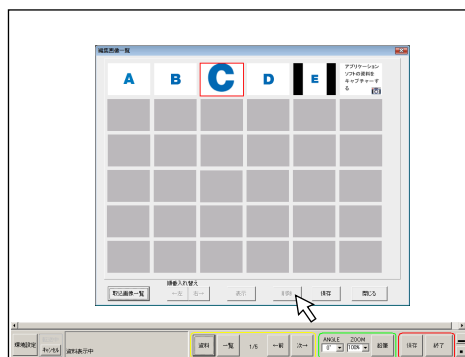
［←左］ボタン：カーソルのある画像と左の画像を入れ替えます。最初に到達するとそれ以上押しても移動しません。

［右→］ボタン：カーソルのある画像と右の画像を入れ替えます。最後に到達するとそれ以上押しても移動しません。

編集画像一覧表示を閉じるには［閉じる］ボタンをクリックします。

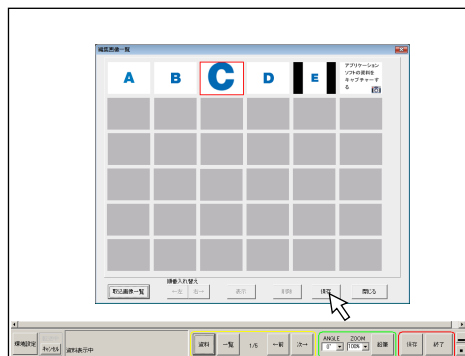
登録資料を追加する場合は、「5-7.資料を追加する」→20ページ参照

不要な資料を削除する場合

(1) 編集画像一覧画面で削除したい画像をクリックします。
クリックした画像にカーソルが移動します。

(2) ［削除］ボタンをクリックすると削除されます。
続けて削除するときは、画像を選択し、［削除］ボタンをクリックしてください。

お知らせ
- 編集資料を全画面で表示しているときは、メニューバーの［削除］ボタンをクリックして削除することができます。
- 編集画像一覧画面で削除しても、再び取込画像一覧画面により選択・表示することで追加することができます。

編集資料を保存する場合

［保存］ボタンを押すと、［タイトルファイル作成］画面を表示します。22ページ「6-2.編集資料を保存する」をご覧ください。

2 一覧表示を閉じるには［閉じる］をクリックします。

6.プレゼンテーションの終了

終了操作です。編集画像を保存して終了することができます。また、PDFファイルとして同時に保存することもできます。

ご注意
パソコンからUSBケーブルを抜くにはUSBリムーバブルデバイスを安全に取り外すための切断操作があります。
→9ページ

《6-1.資料を一覧で確認する》

取込画像一覧より選択・表示した資料が編集画像として保存されています。

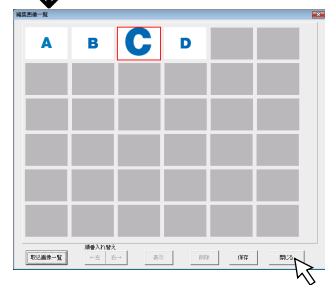
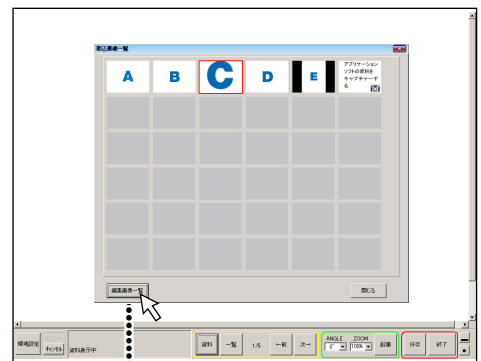
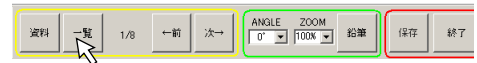
1 ［一覧］ボタンをクリックする。

「取込画像一覧」画面を表示します。
一覧表示中、メニューバーのボタンは無効となります。

2 取込画像一覧画面の［編集画像一覧］ボタンをクリックする。

編集画像一覧で表示している資料が保存されます。
- 目的の画像をクリックし［表示］ボタンを押すと一面に表示します。
- 一覧表示中は一覧画面上のボタン以外動作しません。
- 画面キャプチャした資料にはカメラアイコンが付きます。
- 編集画像一覧で資料の順番の変更および削除ができます。保存が不要な資料は編集画像一覧で削除してください。→20ページ「5-8. 登録資料を編集する」

3 ［閉じる］ボタンをクリックする。

一覧表示中はメニューバーのボタンは動作しません。
［閉じる］ボタンをクリックして一覧表示を閉じてください。

《6-2.編集資料を保存する》

iP Viewerで表示した資料またはプロジェクタのOHPから取得した画像を保存します。

1 メニューバーの［保存］ボタンをクリックする。

タイトルファイル作成画面を表示します。

タイトルを作成する場合

［はい］をクリックします。タイトルを入力するタイトルファイル作成画面を表示します。

タイトルを作成しない場合

［いいえ］をクリックします。［保存先指定］画面を表示します。手順**4**から操作します。

2 タイトルを作成する。

（1）背景に画像を入れる場合は［背景選択］コンボボックスの「▼」をクリックして、背景を選択します。

背景画像は、以下の手順で追加することができます。

1. 背景画像を400万画素(2272×1704)で作成し、JPEG形式で保存してください。ファイル名は「BACKxx.JPG」としてください。(xxは10～99までの数値としてください)
2. 1で作成したファイルをiP Viewerフォルダにコピーしてください。(iP Viewerフォルダの場所は7ページを参照してください。）次回起動時より追加した背景が選択できます。

（2）［フォント］ボタンをクリックし、文字の大きさや色を選びます。
「フォント設定」画面を表示します。
フォントの種類やサイズ、色などを選択し、［OK］ボタンをクリックします。

（3）タイトルを入力します。
タイトルはタイトル画の中央に配置されます。
右側にタイトル画が縮小されて表示します。

お知らせ

タイトル作成画像は保存時にTitle.jpgのファイルが付加されて保存されます。

3 ［OK］ボタンを押して決定する。

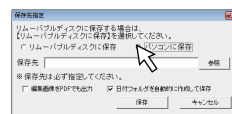
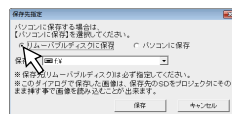
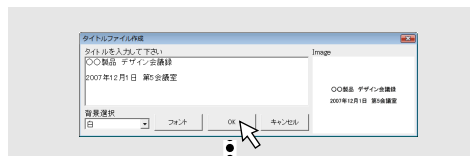
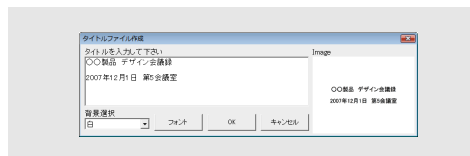
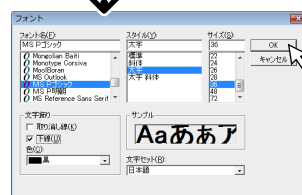
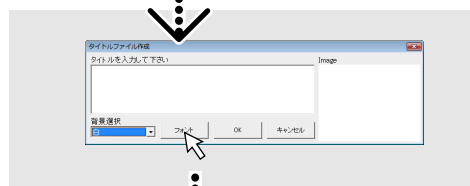
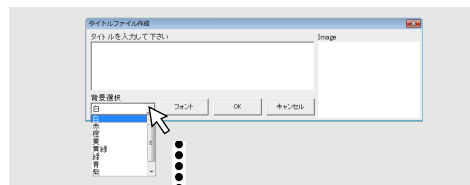
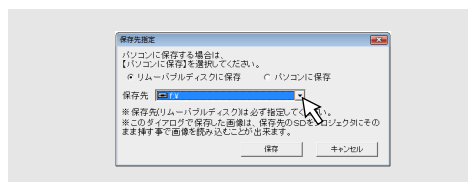
「保存先指定」画面を表示します。
前回選択した保存指定画面を表示します。

【SDメモリーカード保存先】　【パソコン保存先】

4 保存先を選択する。

パソコンに挿入または接続されているSDメモリーカードに保存するか、パソコンに保存するかの選択をします。ラジオボタンをクリックすると選択した保存画面に替わります。

●SDメモリーカードに保存する場合

コンボボックスの▼をクリックしてSDメモリーカードがセットされているドライブを選択します。

●パソコンに保存する場合

（1）保存の条件を選択します。

PDFファイルとしても保存する場合……

“編集画像をPDFにも保存”にチェックを入れます。

ご注意

PDF形式で保存する場合、VS-Viewソフトウェアをパソコンにインストールしていないと保存できません。インストールの方法は、→6ページ参照

自動でフォルダを作成する場合……

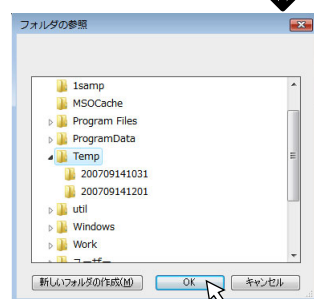
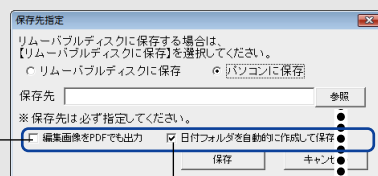
“日付フォルダを自動的に作成して保存”にチェックを入れます。年月日時分の名前のフォルダが作成され、そのフォルダの中に「xxxAVMPJ」フォルダが作成されます（xxxは500～999までの3桁の番号）。

（2）［参照］ボタンをクリックします。

「フォルダの参照」画面を表示します。

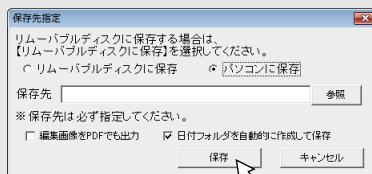
保存するフォルダをクリックして、［OK］ボタンをクリックしてください。「ファイル参照」画面が閉じます。

フォルダを作成する場合は……

［新しいフォルダの作成(M)］をクリックすると新しいフォルダが作成されますので、フォルダ名を入力して［OK］ボタンをクリックします。「ファイル参照」画面が閉じます。

5 ［保存］ボタンをクリックする。

保存を開始し、「保存先指定」画面が閉じます。

保存できない場合は、保存先を選び直してください。

一度保存すると保存先を変更しない限り、同じフォルダに上書きされます。

これで、保存が終了しました。

お知らせ

「SDメモリーカードに保存」を選択した場合

・DCIMというフォルダの中に「xxxAVMPJ」フォルダが自動的に作成され、画像はその中に保存されます。(xxxは500～999までの3桁の番号が自動で順に振られます)
・「999AVMPJ」フォルダが存在する場合、SDメモリーカードに画像の保存はできません。
この場合は、番号の大きいフォルダを削除またはDCIMフォルダの外に移動すると、保存できるようになります。
・画像のファイル名は「MMPJxxxx.JPG」です。(xxxxは4桁の番号が自動で振られます)
・SDメモリーカードに画像を保存すると、プロジェクタに、SDメモリーカードを挿入することでSDメモリーカード内の画像を表示できます。

「パソコンに保存」を選択した場合

・指定した場所に「xxxAVMPJ」フォルダが自動的に作成され、画像はその中に保存されます。(xxxは500～999までの3桁の番号が自動で振られます)
・画像のファイル名は「MMPJxxxx.JPG」です。(xxxxは4桁の番号が自動で振られます)
・「日付フォルダを自動的に作成して保存」にチェックを入れた場合
フォルダ名は iP Viewer を起動した日時で作成されます。(例：2008年1月20日10時10分ならば、「200801201010」がフォルダ名となります。)
・パソコンに保存したデータをプロジェクタで表示したい場合
プロジェクタで表示するには、特定のフォルダにデータをコピーする必要があります。
SDメモリーカード内に「DCIM」というフォルダが無い場合は作成し、この中に「xxxAVMPJ」フォルダをコピーしてください。
・同じ名前のフォルダが存在する場合は、番号(xxx)を変更して下さい。番号は500～999のうち、割り振られていない一番小さい番号にして下さい。(「601AVMPJ」フォルダが既に存在する場合、新しく付けるフォルダ名は「602AVMPJ」としてください)
・同じ番号(xxxが同一)のフォルダが存在する場合は、プロジェクタで表示できません。フォルダ名を異なる番号「xxxAVMPJ」と変更してください。

PDFファイルについて

・PDFファイルでの保存はデータ量が多い場合には保存に時間がかかります。
・PDF形式で保存した場合は、拡大・縮小などの情報は残らず、オリジナル画像の全体がPDFの1ページに記録されます。拡大・縮小した結果をそのままPDFに記録したい場合は、“画面キャプチャツール”を使用してあらかじめその状態のキャプチャ画像を編集画像として追加しておいてください。
また、メモリー容量が十分でない場合は保存に失敗する場合があります。
・作成されるPDFファイル名は「Recxxxx.pdf」となります。（xxxxには、作成日時が入ります。）

《6-3.終了する》

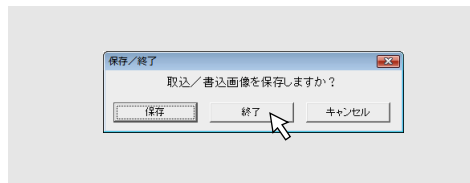
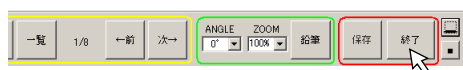
iP Viewerを終了します。

メニューバーの［終了］ボタンをクリックします。

● 前回保存されてから画像の登録や書き込み移動など変化がなかった場合は「終了」画面を表示します。
［終了］ボタンをクリックするとiP Viewerが終了します。

● 前回保存されてから画像の登録や書き込み移動など変化があった場合は［保存／終了］画面を表示します。
保存しない場合は［終了］ボタンをクリックするとiP Viewerを終了します。

保存する場合は［保存］ボタンをクリックします。
「タイトルファイル作成」画面を表示します。
22ページ「6-2.編集資料を保存する」をご覧ください。

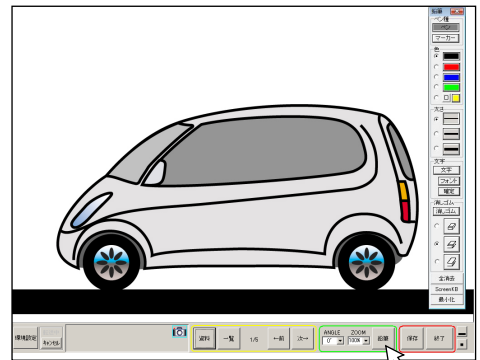
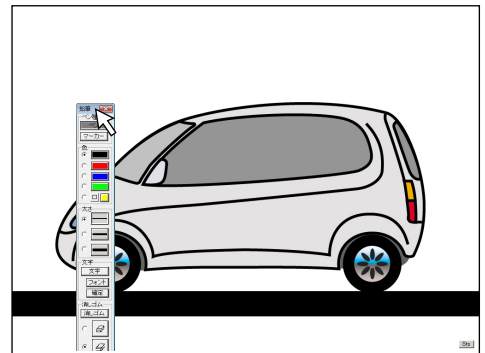
※ パソコンやプロジェクタからUSBケーブルを取り外す場合はUSBデバイスの切断操作を行ってください。
9ページ「2-2.ソフトウェアの終了とUSBデバイスとの切断」をご覧ください。

7. 便利な機能

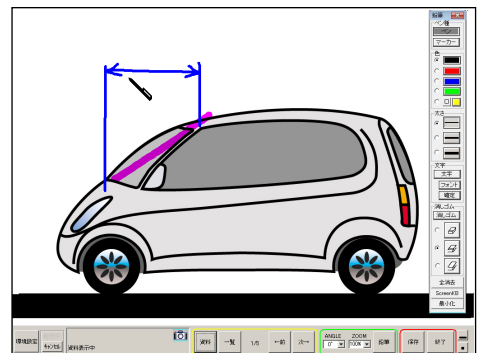
《7-1. 表示資料に線や文字を書き加える》

表示中の資料に線書きを加えたり、パソコンのキーボードから直接文字を入力して表示させる機能です。
パソコンに市販品のペンタブレットや液晶タブレットを接続するとよりリアルな書き込みが行えます。

ご注意
タブレットPCなどをご使用の場合、iP Viewer起動後に、デスクトップ画面などを回転させると鉛筆ツールでの正常な描画ができなくなります。

1 メニューバーの［鉛筆］ボタンをクリックします。

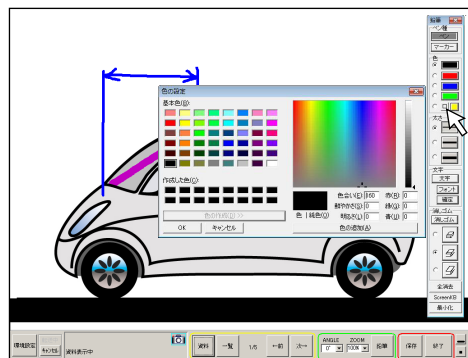
鉛筆ツールを表示します。
・鉛筆ツールの各ボタンの概要は13ページ「iP Viewer画面の名称と主な働き」の「鉛筆ツール」をご覧ください。

・■（最小化）ボタンをクリックするとメニューバーが最小化され、全画面が表示されます。右下の Sts ボタンをクリックするとメニューバーが元に戻ります。
・鉛筆ツール最上部をドラッグすることにより、鉛筆ツールを移動できます。

2 画像を描く。

1）ペン種を選択し、色を選択します。
マウスカーソルアイコンがペンアイコンに変わります。
［マーカー］は半透明の線で下絵が透けて写ります。

2) 線や文字を描きます。

自分で色を作成する場合：鉛筆ツールの □ ボタンをクリックすると色の設定画面が開きます。

目的の色を選択し［OK］ボタンをクリックします。

・さらに微妙な色彩を作成する場合：［色の作成(D)］をクリックし、色分布表示の中から目的の色をクリックします。右横のバーを変えることにより明るさの選択ができます。

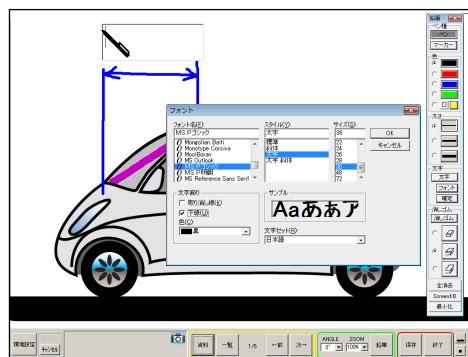
・［色の追加(A)］をクリックすることで、作成した色欄に登録されます。使用時はこの色をクリックします。

3 文字をキーボードから入力する。

1)［文字］ボタンをクリックします。

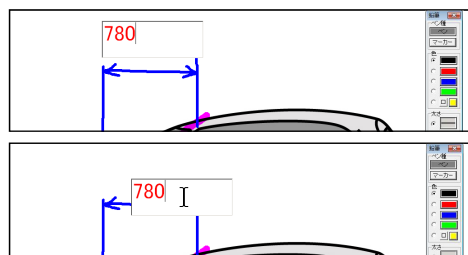
マウスカーソルがペンアイコンに変わります。

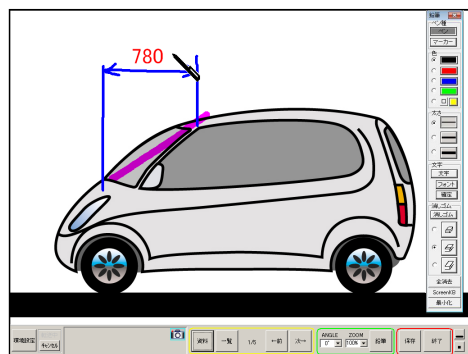
2) 入力開始位置をクリックする

入力ボックスに変わり、文字入力カーソルが点滅します。

・フォントを選択する場合は、［フォント］ボタンをクリックしてください。
フォント画面を表示します。フォント名・スタイル・文字サイズなどが選択できます。
選択後［OK］ボタンをクリックして決定します。

3) キーボードから文字を入力します。

キーボードのEnterキーを押すと改行します。
(Tabキーは働きません)

・文字入力ボックスはクリックまたはドラッグすることで移動できます。

4) 入力文字および表示位置がよければ［確定］ボタンをクリックします。

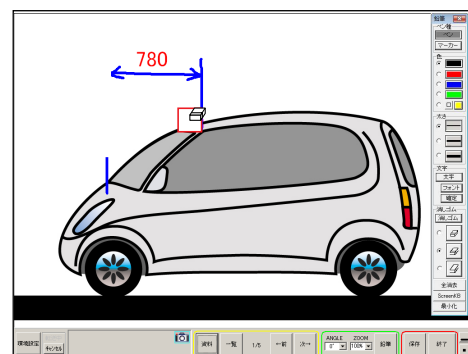
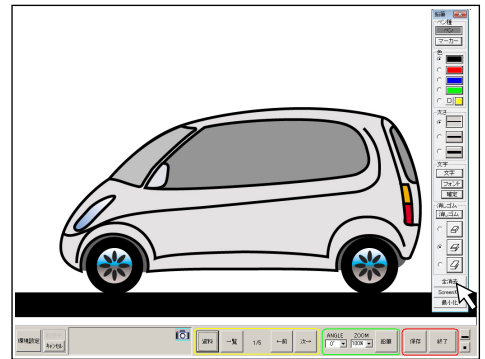
確定後の表示位置や文字修正はできません。［消しゴム］ツールで消去してから入力しなおしてください。
これで文字の入力が終わりました。

お知らせ
・“ZOOM”100%時の入力文字が実表示の文字で一番きれいに表示できます。
・［確定］はキーボードのAltキー＋Enterキーでもできます。

4 鉛筆ツールで描いた文字や線を消す。

1) 消しゴムの太さを選択します。

目的の消しゴムをクリックします。

2) 不要な箇所を消去する

マウスカーソルが消しゴムアイコンに変わります。
消しゴムアイコンの赤枠が消去する範囲です。
マウスをクリックまたはドラッグすると書き込んだ文字などが消えます。

3) 画面全部の描画を消すには［全消去］ボタンをクリックします。
確認画面を表示しますので［はい］をクリックします。
資料として登録した画像は消去されません。

5 鉛筆ツールを非表示にする。

メニューバーの［鉛筆］ボタンをクリックするか、鉛筆ツール右上の［X］をクリックします。

お知らせ 書き加えた線や文字はいつでも［消しゴム］や［全消去］で消去することができます。
ただし、保存した画像は合成画像のため修正することはできません。

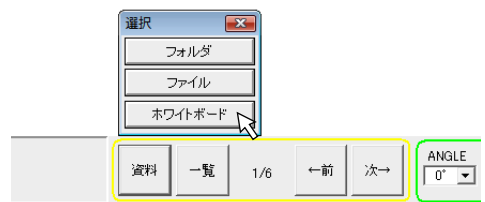
《7-2. 表示画面をホワイトボード（白板）として使う》

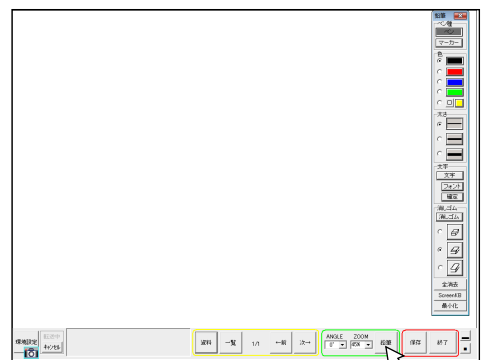
白画面を表示し、手書で描画をしたり文字を入力してホワイトボードとして使うことができます。
描いた画像は編集画面に保存されます。

1 メニューバーの［資料］をクリックする。

選択画面を表示します。

2 ［ホワイトボード］クリックする。

白画面が表示されます。

3 ［鉛筆］をクリックして鉛筆ツールを表示させる。

以降26ページの「7-1. 表示資料に線や文字を書き加える」2〜5と同じ操作で、描画や文字入力を行います。

《7-3.画面をキャプチャして登録する》

パソコンで表示している画面をキャプチャして iP Viewerに登録することができます。

1 [画面キャプチャツール] をクリックして登録したい画面を一番前に出す。

カメラアイコン をクリックするごとに後ろの“ウインドウ”が一番前に出ます。

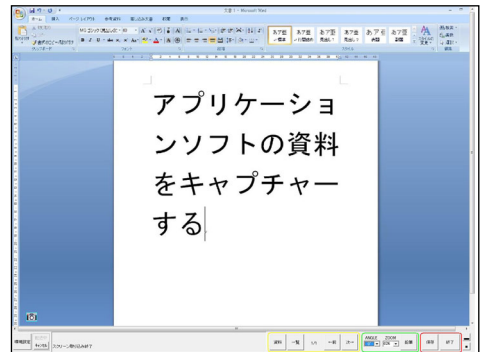
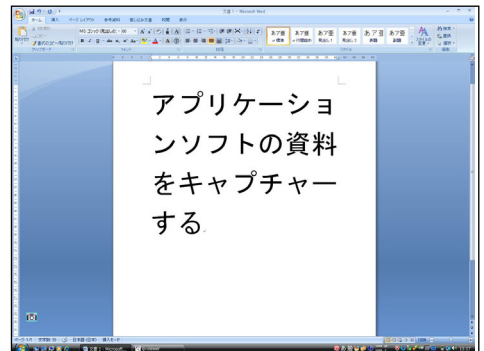
2 資料データを開き、ウインドウを画面一杯に広げる。

資料にするページを開き、キャプチャする範囲を調整します。デスクトップ画面全体がキャプチャされます。

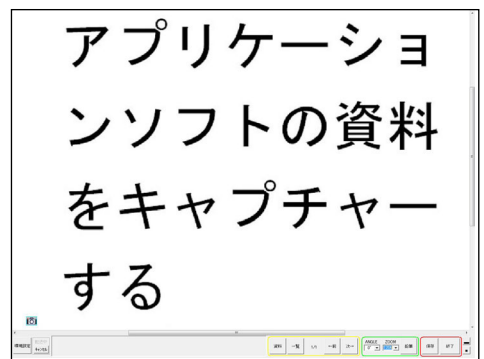
3 [取込] 取込 ボタンをクリックする。

カメラアイコン にマウスカーソルを合わせると［取込］ボタン 取込 を表示します。
［取込］ボタン 取込 をクリックすると iP Viewerに登録されます。

4 カメラアイコン をクリックし iP Viewer 画面を一番前に出す。

キャプチャ画像を表示しています。

5 画像を調整する。

［ZOOM］ボタンで拡大し、スクロールバーで表示位置を調整します。

・メニューバーが調整にじゃまな場合は ■（最小化）ボタンをクリックすると最小化されます（スクロールバーは表示します）。元に戻すには画面右下の Sts ボタンをクリックしてください。

6 取込画像一覧で確認する。

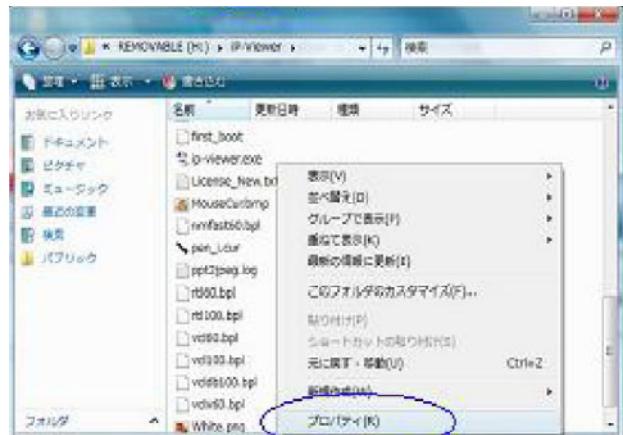
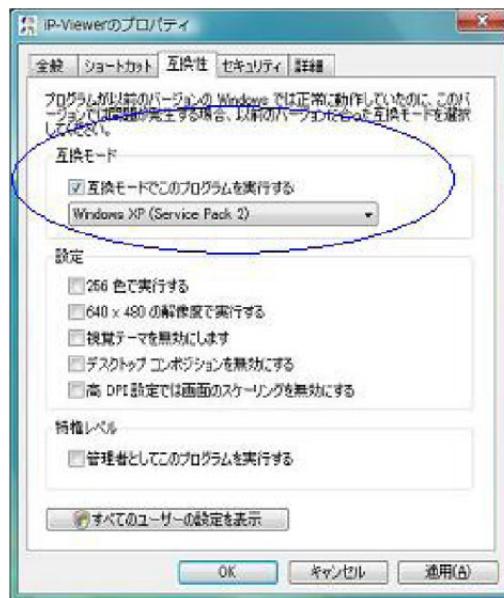
キャプチャした資料は他の資料と区別するためカメラアイコンが付きます。

これで資料のキャプチャと調整が終わりました。

線を加えたり、文字を書き加えるには、→26ページ

Windows VistaでiP Viewerを動作させるには

Windows Vista上で動作を行う際には、アプリケーションの互換性の設定を行ってください。

1. USBケーブルで本機とパソコンを接続した後に、デスクトップの iP Viewer ショートカット、又はリムーバブルドライブ内の iP Viewer フォルダ内にある“iP-Viewer.exe”ファイルのプロパティを開きます。

2. 互換性タグの、【互換モードでプログラムを実行する】にチェックを入れて、Windows XP(Service Pack 2)を選択して「OK」ボタンを押してください。

3. その後、iP Viewerを起動してください。
（初回のみ設定してください。パソコンごとに設定が必要になります。）

保証と修理サービス

保証と修理サービスにつきましては、プロジェクタ本体の取扱説明書をご覧ください。

iP Viewerソフトウェアの情報について

iP Viewer ソフトウェアについてバージョンアップ情報がある場合は弊社ホームページの製品情報に掲載いたしますので、そちらをご覧ください。

お問い合わせ先

ソリューションプロダクツ事業部	〒253 -0103 神奈川県高座郡寒川町小谷(コヤト) 2−1−1
カスタマサポートセンター	フリーダイヤルTEL 0120−175411
ホームページ	http : //www.avio.co.jp
メール	E-mail : support_ip@avio.co.jp
第二営業本部 MP営業部	〒141−0033 東京都品川区西五反田 8−1−5 TEL (03) 5436−0622
大阪支店	〒532−0011 大阪市淀川区西中島 1−11−16 住友商事淀川ビル TEL (06) 6304−7361 (代表)
名古屋支店	〒460−0003 名古屋市中区錦 3-7-9 太陽生命名古屋第2ビル TEL (052) 951−2926 (代表)
福岡支店	〒812−0012 福岡市博多区博多駅中央街 8−36 博多ビル TEL (092) 411−7371 (代表)